

あさきた ウォーキング マップ

大林・三入・三入東地区版



可部バイパスから撮影した白木山

このマップは大林・三入・三入東地区の有志が集まり作成しました。これから歩こうと思っている方、すでに歩いている方も、このマップを利用し、楽しみながら健康づくりに取り組んでみませんか。

みんなで気軽に楽しく歩きましょう！ 健康ウォーキングのすすめ

子どもから高齢者
まで全世代で！

五感で自然を
感じよう

魅力新発見！
こんないいところが！

【ウォーキング自主グループ】

いきいきウォーキング和

開催日：第1水曜日 時間：9時00分～
集合場所：三入公民館 会費：無料

問い合わせ先 地域支えあい課 ☎082-819-0586

あさきたウォーキングマップ 大林・三入・三入東地区版

【発行】安佐北区地域支えあい課 ☎082-819-0586

【制作協力】大林地区社会福祉協議会・大林地区公衆衛生推進協議会・大林愛林会・三入地区社会福祉協議会・三入地区公衆衛生推進協議会・三入郷土史研究会・三入女性会・いきいきウォーキング和・三入東地区社会福祉協議会・可部郷土史研究会・三入公民館フォトクラブ・広島市健康ウォーキング推進者・三入公民館・安佐北区地域支えあい課

【発行年月：令和8年3月】

大林・三入・三入東の見どころ！ 緑の山々に囲まれ、歴史を誇る町を歩いてみよう！



1 転石観音

観音像とされる石に、福王寺の札番号を間違えて彫ったとの言い伝えは、福王寺と、深く関係があったものと思われる。



2 大林八幡神社

祭神は応神天皇、神功天皇、仲哀天皇で、大正8年大林村議会の議決により、中須賀八幡社と代田八幡社を合祀して造営された。



3 伊勢ヶ坪城跡

県史跡で熊谷氏の遺跡。承久の変の恩賞として熊谷氏が安芸三入荘の地頭に任ぜられ武蔵国熊谷郷から赴任した際に、築城した。春にはきれいな桜が咲く。



4 とんが坊城跡

城主は熊谷氏老臣細迫氏という説がある。遺跡からは、郭群や竪堀などの山城跡、古墳、弥生時代後期の集落跡などが確認されている。



5 ユリハーブ園

令和6年に、第19回ひろしま街づくりデザイン賞花と緑部門で受賞。1998年から作業を続けられ、バラやハーブ、樹木が見事な花を咲かせている。



6 三入公民館

白壁と黒瓦、中庭の竹林、季節の花が咲く花壇が美しい公民館。「集い、学び、つながる」市内71公民館の1つ。地域住民の学びを支援している。



7 三役記念碑

三役とは、日清戦争、北清事変、日露戦争の三つの戦役の総称であり、この戦いに出兵した村民の栄誉をたたえるために村民総出で建立された。



8 三入八幡神社/新宮城跡

城主は熊谷氏一族の末田氏。三入八幡神社は、峠八幡神社を遷宮し、高松城の鬼門除けとした。梵鐘は市重要文化財。



9 観音寺跡/熊谷墓所

熊谷氏の菩提寺。本尊は如意輪観音像で、御堂の須弥壇には熊谷氏の家紋であるホヤの紋と、その上側に2羽の向鳩が彫刻されている。



10 土居屋敷跡

県史跡。高松城に本拠を進めた熊谷氏が、平常使用していた屋敷・政庁跡である。



11 標石

出雲往還と石見往還との分かれ道に立つ「標石」は、可部峠や上根峠の険しい山道を無事越えられたことに感謝し、安全を祈ったとされている。



12 申宮城跡

城主は熊谷氏の一族である水落氏。高松城の西の支城であった。三入荘の馬蹄形城郭の入り口である。今上天皇が学生時代に、研究のためにご視察された。



13 高松城跡

県史跡。伊勢ヶ坪城に居城を構えた熊谷氏が、後に高松城に移った。以後、毛利氏に従って萩に移るまで、拠点とした城である。



14 地藏堂

市重要有形文化財「木像地藏菩薩立像」がある。この像は、板張寄木造という珍しい技法を用いており、江戸時代初期のものと思われる。



15 南原屋発祥の地

明治元年から2年に、高宮郡唯一の豪商である南原屋の木坂文左衛門が、藩命により賈金の鑄造に関わらされたと伝わっている。



16 幡崎神社

三方に参道があり、南向きの参道は150段の石段がある。境内の右手に梵鐘、正面に拝殿、神殿がある。創建の年代は不詳。豊作に導く神様といわれている。



17 南原ダム

発電専用ダムとして建設された。揚水発電は、発電に使用した水を、余裕時にその電力を使って水を吸い上げ、電力不足のときにその水を流して発電している。



18 横山屋敷跡

熊谷氏の分家である桐原氏の館跡とも言われている。熊谷氏が萩に移った後は、庄屋の屋敷として使われた。



19 出雲往還

三入大林地区内で唯一の往還で、山陰と山陽を結ぶ幹線道路。特に広島から可部・吉田・三次までの道は三次往還とも呼ばれている。往還とは現在の県道を指す。



20 石見(石州)往還

広島と浜田を結ぶ往還で、浜田藩の参勤交代ルートのほか、鉄の輸送路としても使われていた。鉄は重いので石量が敷かれた区間が多くある。